



## 日本学術振興会ストラスブール研究連絡センター活動報告 (2008年7月~9月)

### JSPS Strasbourg Office Quarterly / 2008-09 No.2



#### 学術セミナー及びルイ・パスツール大学 (ULP) との Joint Seminar の開催

2003年より、ストラスブールにおいて日仏学会館と共催で、日仏の研究者を招待して、様々なテーマで学術セミナーを開催しています。また、フランスの大学を訪れる日本人研究者を支援する一環として、ルイ・パスツール大学とのULP/JSPS ジョイントセミナーも開催しています。2008年7月から9月までの間に、以下の2回のセミナーを日仏学会館等にて実施しました。

#### 9月5日 / 第22回 ULP/JSPS ジョイントセミナー

講演者：小林 進教授 (東京理科大学薬学部)

講演タイトル：新しい方法論の開発に基づく生物活性天然物の  
全合成研究

講演概要：高立体選択的なビニロガス向山アルドール反応を開発して  
極めて複雑な骨格を有する抗生物質 (カフレフンジン、  
TMC-151C、ノルゾアンタミン) の全合成に成功した。



#### 9月25日 / 第67回学術セミナー

講演者：Emile Decker (サルグミン美術館館長)

講演タイトル：ジャポニズムと工芸美術

講演概要：サルグミン (Sarreguemines) の陶器美術館に、日仏 150 周年記念事業「日本の夢」

が展示され、日本の陶器が出品されている。当館の館長である講演者は、19世紀後半からヨーロッパ、特にフランスの装飾芸術に深い影響を与えた日本の陶器について概観した。



#### フランスの大学、ゲラヴェール、研究機関への訪問：JSPS 事業説明会・JSPS 同窓会支部会の実施

当センターは、フランス各地の大学を訪問し、大学幹部や研究者と直接に対話を行い、また、その機会にその地方の JSPS 同窓会との交流を深めています。

#### 7月10日 Université de Savoie (サヴォア大学), Politech' Savoie 及び Savoie Technolac 訪問

サヴォア地方はフランスの南東部、アルプスを望んでスイスやイタリアとの国境沿いの地方です。特にサヴォア大学本部が置かれるシャンベリーという街は、フランス・イタリア・スイスを繋ぐ交通の要衝であり、13世紀から16世紀まで300年近くサヴォア家が治めるサヴォア公国の首都でした。その後、サヴォア公国の首都がイタリア・トリノに移り、さらに19世紀半ばにサヴォア家がイタリア統一の中心としてイタリア王国を建国する際、サヴォア地方はニースとともに1860年にフランスに割譲されたという歴史を持っています。

サヴォア大学は大学としては 1979 年に設立され、法律経済、文学言語、人文社会科学、基礎応用科学の 4 分野の学部を持つほか、Polytech' Savoie というエンジニアリング・スクールおよび 2 つの技術学校 (IUT) を併置しています。歴史も新しく、学生数 12000 名、教育・研究スタッフ 600 名、事務スタッフ 300 名という小規模な大学ですが、Annecy-le-Vieux、Le Bourget-du-Lac、Jacob-Bellecombette の 3 ヶ所にキャンパスを持っています。今回の訪問では、サヴォア大学と Polytech' Savoie のアレンジで、サイエンス系の学部及び研究所、エンジニアリング・スクールが所在する Le Bourget-du-Lac 地区のキャンパスを訪問しました。訪問では、Prof. Luc FRAPPAT( 研究担当副学長 ) Prof. Eric BRUNAT ( 国際担当副学長 ) Prof. Gerard MERLIN ( 研究評価担当副学長補佐 ) Prof. Georges HABCHI ( 博士課程研究科長 ) 等の大学幹部との意見交換、また FRAPPAT 研究担当副学長の司会により、日本との交流に関心をもつ研究室長レベルの研究者を集めての学術振興会プレゼンテーションが開催されました。同時に行った研究室訪問では、大学研究室のほか、Le Bourget-du-Lac 地区キャンパスもその一部となっているフランスの再生可能エネルギー・エコ産業分野の研究開発拠点となっているサヴォア・テクノラック (Savoie Technolac) を訪問しました。サヴォア・テクノラック研究拠点では、Dr. Etienne WURTZ( CNRS 主任研究員、2008 年 3 月に開催した CNRS-JSPS 共同コロキウム“ Energy supply and demand in the 21st century”での仏側講演者 ) の案内により、ソーラー分野でフランス国内トップクラスの研究センター Institut National de l'Energie Solaire : INES ( 国立太陽エネルギー研究所 ) を訪問しました。



大学幹部に対する学術振興会事業プレゼン



INES ( 国立太陽エネルギー研究所 ) のソーラーパネル実験施設にて

#### 9月22日 Université de Limoges ( リモージュ大学 ) , ENSCI ( セラミックス工学大学院 ) , 及び Pôle Européen de la Céramique 訪問

白磁の陶磁器で有名なりもージュは、愛知県瀬戸市と姉妹都市であり、フランスの中部に位置する都市で、リムーザン地方の首府です。人口およそ 23 万人のうち 2 万人の学生が占め、ひとつの大学都市が形成されていると言えます。今回は、学振同窓会員 Dr. Julien IGUCHI-CARTIGNY とリモージュ大学広報室のアレンジで、リモージュ大学、セラミックス工学大学院 ( ENSCI ) 及び新設中のセラミックスの研究拠点を訪問しました。

リモージュ大学の前身は 1626 年に遡りますが、大学として認定されたのが 1968 年とフランスの中では割と新しい大学です。同大学は、法学及び経済学、医学、薬学、文学及び人文科学、理工学の 5 学部、4 つの技術学校、ENSIL というエンジニアリング・スクールを持ち、およそ 14,000 人の学生が在籍し、6 つの研究ユニットに 800 人以上の教育・研究スタッフが属している中規模の大学です。

今回の訪問では、理工学部で博士課程学生及び研究者を対象とした JSPS 事業説明会、Prof. Jacques FONTANILLE ( リモージュ大学学長 ) 主催の同大学研究評議会にて学振事業説明、Prof. Jean-Claude VAREILLE( 大学評議会担当副学長 ) Prof. Michel COGNE ( 研究担当副学長 ) Prof. Michel THERA ( 国際担当副学長 ) Prof. Dominique MAILLARGEAT ( 博士課程研究科長 ) Prof. Patrick LEPRAT( ENSIL 学長 ) Dr. Philippe THOMAS( IPAM 副所長 ) Prof. Dominique CROS ( XLIM 所長 ) 等を含めた大学幹部、研究所幹部との意見交換が行われ、微生物分子細胞生物学研究室、環境学研究室、天然物化学研究室及び数学情報学研究室を訪問しました。同大学は、La Rochelle 大学、ポワチエ ( Poitiers ) 大学、国立高等機械工学・航空技術学校 ( ENSMA ) 及びセラミックス工学大学院 ( ENSCI ) と共にひとつの研究・高等教育拠

点 (PRES Centre Atlantique) のプロジェクトを高等教育・研究省に提出中です。また、リモージュ大学は、2009年1月1日付けで自治独立大学として認められる20の大学の一つでもあります。リモージュ大学の誇るXLIMは、リモージュ大学とCNRSの連合研究ユニットで、175人の研究者と200人の博士課程学生が属し、数学、コンピュータ、コミュニケーションエンジニアリング、画像解析、データ保全、マイクロウェーブ、オプティクス、エレクトロマグネチズムなどの分野の研究を行っています。XLIMは、大学や国立研究所での基礎研究を企業研究に直接結びつけることを目的として、フランス全土に設置されたCarnot Institut (33の研究所、12,800人の研究者)の1メンバーです。また、XLIMは、フランス政府が各地域の産業活性化を図り、国際競争力をつけて、より魅力的な地域づくりのために2004年に開始した産業クラスター (Les Pôles de Compétitivité) の一つElopsysの研究の中核を担っており、新しい施設を建設中です。

次に訪れたセラミックス工学大学院 (ENSCI) は、その前身が1893年、セーブルに設立されましたが、1979年、リモージュに移転し、工業用セラミックスの研究を中心に行っているヨーロッパでもユニークなエンジニアリング・スクールです。210人の学生が在籍し、約50人の教育・研究スタッフが勤務しています。名古屋工業大学とは、2003年に学术交流協定を締結し、学生、研究者の交流を盛んに行っています。同校では、Prof. Pierre ABELARD (研究評議会議長・国際担当)、Prof. David S. SMITH (GEMH 研究所長) に迎えられ、同エンジニアリング・スクールの概要について説明があり、学生実習室及び工業用セラミックスに関するいくつかの研究所を訪問しました。また、現在、郊外に建設中の産業クラスターPôle du Européen de la Céramiqueを訪問しました。2009年の完成の暁には、ENSCIも移転して450人の研究者が集うセラミックスの一大研究センターになることが期待されます。



微生物分子細胞生物学研究室訪問



リモージュ大学研究評議会での学術振興会事業のプレゼン



## 日本の大学、研究機関等の国際化事業への協力、仏側対応機関およびストラスブール日仏学会館との連携・協力

**7月22日 /** 大学キャンパスに新設された Maison Interuniversitaire des Science de l'Homme Alsace (MISHA) の館長 Prof. Christine MAILLARD を中谷センター長が表敬訪問し、今後の協力関係について話し合いを行いました。

**9月4日 /** 東京理科大学から小林進教授が来訪し、ルイバスツール大学の国際担当副学長 Dr. Mireille MATT および中谷センター長と両大学の研究者交流について話し合いを行いました。

**9月10日 /** 大阪大学グローバル COE プログラム真島和志教授 (COE フェロー委員会委員長)、ルイ・バスツール大学国際担当副学長 Dr. Mireille MATT、フランス科学アカデミー会員 Dr. Pierre BRAUNSTEIN 及び中谷センター長が両大学の学术交流について話し合いを行いました。

**9月19日 /** 名古屋大学エコトピア科学研究所大日方五郎教授、Prof. Ernest HIRSH (ENSPS、ルイ・バスツール大学)、Prof. Marie-Claire LETT (日仏会館館長) 及び中谷センター長が両大学の修士及び博士課程学生交流について話し合いを行いました。



## フランスの学術動向についての情報提供

フランスでは、サルコジ政権の下、現在政府主導で様々な高等教育・研究システムについての改革が行われております。当センターでは、これらの動きをフォローし、随時報告を行っております。7月から9月に行った主な情報提供については、下記のとおりです。

### CNRS の組織改革について（要約）

CNRS は7月1日に開催した理事会において、“Horizon 2020”と題される CNRS の組織を改編する新しい戦略プランを採択した。

これまで CNRS では6つの主要研究部門（Départements：数学・物理・惑星宇宙科学、化学、生命科学、人文社会科学、環境・持続しうる開発、情報及び工学）及び2つの国立研究所（原子力物理学及び素粒子物理学国立研究所：IN2P3、および宇宙科学国立研究所：INSU）にて活動を行っていたが、本戦略プランの採択により、現在 CNRS で行われている全ての研究分野は、CNRS に残り、新たに研究所群（Instituts）に再編成されることとなった。また、CNRS の持つ種々な重要な役割を再評価するとともに、国家の定める研究大綱の枠の中で、CNRS 執行部の責任の下に CNRS の研究政策を推進することになった。

採択された戦略プランのポイントは以下の通り：

戦略プランにおいて強調される点は：

- ・ CNRS の研究所群の創設
- ・ CNRS 全体の方針として、多領域（学際的）研究分野の強化
- ・ 人的資源戦略の強化
- ・ CNRS のパートナー（大学及び国立研究所）との連携

CNRS における研究所群は、学際研究を推進するために以下の2つの機能を付与される；

各研究所所属の研究室での研究実施

研究所以外に属する研究室（CNRS 内の他の研究所や、大学・他の国立研究機関等に属する研究室）に対して、

Agences de moyens（資力・財力を提供する行政機関＝ファンディング機関）としての機能

この目的のため、CNRS における研究所群は代替不可能な2つに区別された予算を付与される。

すべての CNRS の研究所群は、国のミッションに基づいて研究を行う。（現行の2つの研究所＜IN2P3 と INSU＞は、そのままの形で残される）

CNRS 執行部は、各研究分野間の相互交流を強化し、機関のあらゆるレベルにおいて、学際研究のための手段を明らかにする、すなわち：

研究室は自ら“境界領域”の研究室となることができる。複数の研究所に研究室は所属することが可能であるが、1つの研究所が主研究所となる。

CNRS により学際研究プロジェクトのための施設が創設される

理事会を終えて、CNRS の Bréchnac 会長は以下のようにコメントしている：

“ この改革は CNRS に新しい推進力を与える。CNRS はこの改革により、現代化をすすめ、組織に一層の透明性と一貫性をもたらすことにより、進化しつつあるフランスの研究状況全体の中で、CNRS の立場を明確にすることができる。”

本改革により新たに創設される CNRS の研究所群の編成と領域については、2008 年末までに国と CNRS の間で締結される契約によって明確にされる。

参考資料：

CNRS による発表：<http://www2.cnrs.fr/presse/communique/1371.htm>

### フランス国立大学改革の進展について（第 1 期自治独立 20 大学の採択）

2007 年 8 月に制定されたフランス国立大学のいわゆる自治独立に関する法（Loi sur l'autonomie）において、2008 年 8 月までにフランスの各大学において実施されることが求められていた改革について、ペクルス高等教育・研究大臣から記者会見が行われた。

2008 年 7 月 24 日に行われた大臣発表によると、この改革は大変スムーズに進行し、例えば、全ての大学が、人数を 30 人までに制限して効率的に大学の指針を決定する新しい評議会が設置され、これらの評議員の選挙で選ばれた新学長のうち 25 パーセントは、新任の学長である。評議会の構成員も平均して 65 パーセント以上が新任となり、学外からの地域代表・企業代表も、平均して 2 名が選出されている。

大臣によれば、自治独立に関する法の実施および政府が支援する大学施設の改善（ストラスブール大学、モンペリエ大学、エクス・マルセイユ大学等が採択されている）によって、フランスの大学の様相は一変するだろう事が期待されるとの意見表明があった。また、PRES（研究・高等教育拠点）についても、新たにクレルモン・フェラン大学連合が 10 番目の PRES として採択され、また現在 3 つのプロジェクト（ロワール地域、ノール・パドゥカレー地域、リモージュ - ポワチエ - ラロシェル連合）が検討されている。

更に大臣は、2009 年 1 月 1 日付けで、20 の大学が自治独立大学として認められ、選ばれた大学は 2009 年より強化された自治権限により、予算の執行や人的資源の管理を行う事が可能となる。この採択は 4 つの基準（財政管理、人的資源管理、情報システム管理、施設管理）によって審査された。国はこれらの自治独立大学に対して、次の 3 つの支援を行う：

大学の機構改革を推進するための支援として、採択された 1 大学につき 250,000 ユーロが支給される。この支援金は、機構改革に携わるスタッフの報酬としても利用可能である。

大学を運営する幹部職員を育成するための 3 年間の教育プランを作り、管理運営を行う 1500 名の幹部職員を育成する。

現行の職員のうち、カテゴリー C の職員から 650 名をカテゴリー A 及び B に昇進される再評価プランを実施する。

選ばれた 20 大学は以下の通り：

Aix Marseille 2	Lyon 1	Paris 5	Strasbourg 1
Cergy-Pontoise	Marne la Vallée	Paris 6	Strasbourg 2
Clermont-Ferrand 1	Montpellier 1	Paris 7	Strasbourg 3
Corse	Mulhouse	La Rochelle	Toulouse 1
Limoges	Nancy 1	Saint-Etienne	Troyes

Les 20 premières universités autonomes au 1<sup>er</sup> janvier 2009  
Loi sur les libertés et responsabilités des universités



Source : Ministère de l'Enseignement supérieur et de la Recherche - 24 juillet 2008

なお、2008年7月29日の同大臣の記者会見によると、フランス政府は、2010年に第2次の自治独立大学として選ばれる可能性のある30大学の審査を行っている事を発表した。これらの審査は2009年の6月30日までに終わる予定である。

出典：

フランス高等教育・研究省 HP <http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/>

ル・モンド紙 2008年7月26日

#### フランスにおける大学施設の改善について（第2次採択）

2008年7月11日のベクレス高等教育・研究大臣の記者会見で、フランス政府が進めている大学施設改善の施策である“Opération Campus”評価委員会の報告を受けて、既に5月末に採択された6つのプロジェクトに加えて、Aix-Marseille地域、Paris-Aubervilliers地域、Saclay地域の3つのプロジェクトを採択し、4つ目として、Paris intra-muros地域のプロジェクトについては、7月後半に行われる監査委員会の結果を待って採択することとした。これによりフランス全土で10のプロジェクトが採択された事となる。

# Carte des dossiers retenus - Opération Campus -

Hors Ile-de-France

En Ile-de-France



Source : ministère de l'Enseignement supérieur et de la Recherche - 11 juillet 2008

10 のプロジェクトでは、39 の大学、37 のグラン・ゼコール、CNRS 等の主要な研究機関が関係し、650,000 人の学生及び 21,000 人の研究者が恩恵をこうむる事となる。選ばれた 10 のプロジェクトについては、今後最終案を評価委員会に再度提出し、承認を得た後、予算が配分され、2009 年から施設改善に取り組むこととなる。

これに加えて、ベクレス大臣は、今回採択されなかったプロジェクトのうちから、“Campus prometteurs”(期待の持てるキャンパス)として、以下の7つのプロジェクトを地方振興との関連性で評価し、また“Campus innovant”(イノベーション・キャンパス)として以下の4つのプロジェクトを地域のパートナーとの連携により一層の発展ができるよう高等教育・研究省は支援していくと表明した。

## “Campus prometteurs” 7 プロジェクト

Lille

Nancy-Metz

Paris Est (Créteil, Marne-la-Vallée)

Université Européenne de Bretagne

Nantes

Nice- Sofia Antipolis

Clermont-Ferrand

## “Campus innovant” 4 プロジェクト

Valenciennes

Le Havre

Cergy

Dijon

フランス政府は、この施策によって、フランスの大学の魅力を補強し、国際的なヴィジビリティを高める事を期待している。第 1 時採択ではストラスブール、ボルドー、トゥールーズ、グルノーブル、リヨン、モンペリエと、パリ以外のフランス地域圏の主要プロジェクトが採択されたが、今回の第 2 時採択では、4 つのうち 3 つがパリ地域圏のプロジェクトであり、特に Saclay 地域については、サルコジ大統領がフランスの MIT として科学技術を振興するための学研都市として期待していた。即ち、その地域にはパリ南大学（パリ第 11 大学）、エコール・ポリテクニクをはじめとするフランスの優れた高等教育・研究機関や CEA、CNRS 等の研究施設が集中し 25,000 人の学生、12,000 人の研究者を擁し、フランスの公的研究の 20 パーセントがこの地域で生み出されている。今回は 21 の Saclay 地域の機関が共同してプロジェクトを実施することになる。なお、Paris-Aubervilliers 地域については、パリ第 1、パリ第 3、パリ第 13 大学及びグラン・ゼコール等による、社会人文科学の発展のためのプロジェクトとして唯一採択された。

出典：

フランス高等教育・研究省ホームページ <http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/>

ル・モンド紙 7月1日号

フィガロ紙 7月11日号

#### **EU 議長国としてのフランスが提案する高等教育・研究分野における優先課題**

フランスは 2008 年 7 月より、半年間の任期で EU 議長国を務めることになり、この間フランスは欧州各国と協力して様々な課題に取り組むこととなるが、高等教育・研究の分野においては、ベクレス高等教育・研究大臣により、7 月 1 日付で 3 つの優先課題が提案された。すなわち：

- ・ Developing mobility for students, teachers and researchers across Europe through a European university-ranking system ( 学生、教官、研究者の流動性をヨーロッパ大学ランキングシステムを通じて高めること )
- ・ Better coordination for the European Research Area to speed up research in areas of major importance to society ( population aging, energy, food, climate change, information society ) ( 社会にとって重要な研究分野 ( 高齢化、エネルギー、食糧、気候変動、情報社会 ) の研究を促進するためのヨーロッパ研究圏のよりよい協調性を図ること )
- ・ Make a genuine power in space for the European Union ( 欧州連合のための宇宙空間における活動の一層の活性化 )

EU 議長国として、フランス高等教育・研究省は、約 40 の主要な行事を主催する予定であり、3 つの非公式閣僚会合、同省主催の 21 の行事、同省の支援を受ける 14 のイベントが含まれている。3 つの閣僚級会合については、以下の通りである：

7 月 17 日：研究大臣による非公式会合（於：Versailles - Jouy-en-Josas）

7 月 21 日及び 22 日：宇宙担当大臣による非公式会合（於：フランス領ギアナ - Kourou）

11 月 26 日：教育及び高等教育担当大臣による非公式会合（於：Bordeaux）

出典：

EU 議長国フランスホームページ <http://www.ue2008.fr/PFUE/lang/en/accueil>

フランス高等教育・研究省ホームページ <http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/>



### 欧州研究大臣による非公式会合の開催について

高等教育・研究の分野における優先課題を検討する欧州 27 ヶ国の非公式閣僚会合が、EU 議長国であるフランスのペクレス高等教育・研究大臣により 7 月 17 日にフランス・ベルサイユ近郊にある Jouy-en-Josas の HEC（高等商業学院）において開催された。ヨーロッパ研究圏（European Research Area: ERA）の「ビジョン 2020」について検討が行われ、EU 加盟国の研究活動のより一層の連携を高める事を目標としている。4 つの主要なテーマ別ワークショップが開催され、食糧危機と農業および生態系管理への影響、気候変動、代替エネルギー源の必要性、知識社会及び欧州人口の高齢化への社会移行、の検討が行われた。

大臣会合においては、ヨーロッパにおける研究において協力が可能な以下の 4 つの主要テーマが取り上げられた：

- 気候変動や食品安全のための農業技術
- 欧州エネルギー技術計画とその産業への浸透
- プライバシーを尊重しつつコンピュータやインターネットの技術発展
- アルツハイマー研究の欧州での協調

今後、検討を重ねて、これらの主要テーマはヨーロッパ研究圏のための「ビジョン 2020」の中で欧州レベルでの取り組むべき課題として 2008 年末までに選定される予定である。

出典：

EU 議長国フランスホームページ <http://www.ue2008.fr/PFUE/lang/en/accueil>

フランス高等教育・研究省ホームページ <http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/>

### EU 議長国としてのフランスが主催する最初の宇宙開発に係る非公式閣僚会議

フランスの海外県として南アメリカに仏領ギアナがあるが、仏領ギアナの都市クール（Kourou）は、欧州の宇宙センターとしてロケット基地が置かれ、アリアン・ロケットの打ち上げが行われている。宇宙開発は、フランスが最も力を入れている科学技術分野であり、2008 年 7 月 20-22 日の 3 日間に渡り、フランスのペクレス高等教育・研究大臣が召集して、ヨーロッパの宇宙担当大臣が集まって会議が開かれた。

本会議では、欧州の宇宙担当閣僚により、欧州連合が欧州宇宙政策の主体となり、宇宙開発の分野での基本方針（特に宇宙探検分野における将来の方向）を定めること、「ガリレオ計画（欧州版の全地球測位システム）」及び、「GMES 計画（Global Monitoring of Environment and Security：全地球的環境・安全モニタリング）」のような市民生活に役立つ宇宙プログラムを実施すること、欧州の宇宙政策を国際的レベルで発信し、特にアフリカなどの発展途上国との協力を推進することが希望された。

なお、この非公式閣僚会議の際に、視察が行われたクール宇宙基地では、8 月 14 日にアリアン 5 による通信衛星の打ち上げが成功裡に行われ、これは 27 回連続の打ち上げ成功となった。

出典：

EU 議長国フランスホームページ <http://www.ue2008.fr/PFUE/lang/en/accueil>

フランス高等教育・研究省ホームページ <http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/>

### 学生宿舎の改善について

2008年9月5日のペクレス高等教育・研究大臣の発表によると、同大臣とエルベ・モラン国防大臣は、フランス国内における学生のための宿舎の数を増やしたり、改善するために、15の地域において、軍の兵舎を改装して、学生宿舎にすることを合意した。

これは近年フランスで進められている国内軍用基地の縮小・削減の動きに対応したもので、不要となる83の基地・兵舎のうち、15の軍施設がいずれも高等教育機関が集中する地域に隣接しているということで、施設転用が両大臣の間で合意となったものである。指定された15の地域は下図のとおり：



これらの宿舎は、2010年の新学期から利用可能となり、2012年までに5000室から6000室が新たに供給されることとなる。なお、各地域で大学等の宿舎の管理を行う政府機関であるCROUS(Le Centre national des oeuvres universitaires et scolaires)が提供する宿舎数は、2007年に154,000室であったが、2008年には、宿舎新設等により157,000室となっている。

出典：

フランス高等教育・研究省ホームページ <http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/>

Le Monde 紙 9月6日号

DNA 紙 9月6日号

### 新しい学生貸与奨学金の創設について

2008年9月8日、ペクレス高等教育・研究大臣とOSEO(フランスにおける中小企業支援のための政府機関)のフランソワ・ドゥルアン総裁の間で、新たな学生貸与奨学金についての契約が締結された。本契約にはフランス銀行協会も同席し、Banque PopulaireグループとCETELEMグループが最初の奨学金貸付を担当する銀行となった。

本奨学金は、28歳以下の学生(フランス人学生及びフランス在住のEU国籍の学生)を対象としており、他の奨学金取得の有無に関わらず、また保証金を要求せず、また経済状況の如何に関わらず利用可能なものである。本奨学金の概要は

以下の通り：

フランス政府は本奨学金運営のために、年間 500 万ユーロを保証資金として OSEO の運用に託する

最大貸付額：学生一人につき、15,000 ユーロ

保証：貸付額の 70 パーセントを政府保証、30 パーセントが貸付銀行の保証

返済期間：貸付金の第 1 回目支給の時点から、最大 10 年間 利息付



新学生貸与奨学金のロゴマーク

なお、これまで政府による学生貸与奨学金は、政府による学生支援機関である CROUS (Le Centre national des oeuvres universitaires et scolaires) により運営されており、利率ゼロの « Prêt d'honneur » (名誉貸付金) として 2007 年には 1348 人が恩恵に浴した。今回の新しい奨学金は、この現行奨学金に取って代わるものであり、これまで実際には、優秀なグラン・ゼコールの学生に殆ど利用が限られていた政府の貸与奨学金を、より広く、一般の大学の学生にも利用可能とすることを狙いとしている。しかるに、新奨学金は、貸与利息付の貸付金となり、市場利率により利息が決定するため、学生団体の一部には、この新方式に対する批判の声もあがっている。

出典：

フランス高等教育・研究省ホームページ <http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/>

OSEO ホームページ <http://www.oseo.fr/>

Le Monde 紙 9 月 5 日号

DNA 紙 9 月 4 日号

---

2006 年 4 月から 2 年半にわたり当センターに赴任しておりました白石賢一副センター長が、9 月末にて離任し、京都大学に戻ります。後任として、木戸場大輔氏 (京都大学) が新たな副センター長として着任します。

---

**日本学術振興会ストラスブール研究連絡センター / JSPS Strasbourg Office**

**42a, avenue de la Forêt-Noire 67000 Strasbourg, FRANCE**

**Tel : +33 (0)3 90 24 20 17 / Fax : +33(0)3 90 24 20 14 HP : <http://jsps.u-strasbg.fr/>**

---